

報告書 目次

はじめに

- 1 事業概要
- 2 事業実施報告
 - アクターズキャンプ
 - ふくい自然アートフェスティバル in 美山
 - アートフェスティバル実行委員会
- 3 事業成果
- 4 事業検証・課題
 - アクターズキャンプ
 - アートフェスティバル実行委員会
 - ふくい自然アートフェスティバル in 美山
- 5 今後の課題
 - アートフェスティバルと主軸とした、新たな環境教育活動の取り組み提案
- 6 事業評価および事業の展望
 - 1 実行委員会および、事業関係者との討議
 - 2 展望について
 - 3 コメント
- 7 関連資料

ご挨拶

私どもNPO法人自然体験共学センターは、福井市上味見地区の里山と廃校（旧上味見小学校）を舞台に四季折々の自然体験活動を行っています。小中学生向けの自然体験活動の取り組みを充実させようと、地域の方々のご理解をいただいて廃校の裏山にツリーハウスを作ったのが2006年のことです。それ以来ツリーハウスの森は毎年1,000人以上の子ども達や大学生ボランティア、大人も集い遊ぶ場となっています。森に親しむ子ども達を増やそうと、これまでにツリーハウスの森で、森の音楽会、森の喫茶店などに取り組んできました。里山や森の自然と四季が様々に顔を変えいろいろなことを教え伝えてくれることを実感しています。

さて、そうした里山の森を活用して「ふくい自然アートフェスティバル in 美山」を実施し、環境意識の啓発及び人材育成に取り組む事業を企画しましたところ、2009年春、地球環境基金の採択を受け、本事業に取り組んでまいりました。

森や自然の素晴らしさ・豊かさ、同時に自然に対する畏怖の気持ちをもち、五感を使い身体全体で感じることで、そして自然や環境の中で生かされている自分を実感することは人間としても大切なことであり、また環境保全活動を行っていくうえでも重要です。そうした気持ちを育む手法として「アート」を取り入れ活用するということが本事業の特徴の一つです。

また、そうした新しい考え方や手法を自ら考え創り出し試行錯誤しながらも発展させていく力は環境保全活動が普及していくうえで必要でもあります。そうした力が若い世代に育っていかなければやがて活動は衰退していくかもしれません。こうした観点から、若者の企画力・運営力を養成する狙いをもたせたことも本事業の特徴です。

子ども達、そして支える大人達は劇づくりを通じて、自然・環境のこと、劇の上演または台本として使用した「葉っぱのフレディ」を通じて、いのちの循環、自然を含めた地球全体について考え、行動へとつながっていくなど、本事業を行うなかで様々な成果を得ることができたと考えております。同時に課題も多々ありました。ここに、本事業のご報告とともに成果と課題を整理するために本報告書を発行させていただきました。ご一読いただくとともにご指導鞭撻を宜しくお願い申し上げます。

最後になりますが、本事業にご協力いただいた方々・諸団体の皆様に心から感謝申し上げます。

2010年3月

NPO 法人自然体験共学センター
理事長 辻 一憲



9月23日 プレ公演 森のステージにて

事業概要

- 事業名** : 里山の森を活用した「ふくい自然アートフェスティバル in 美山」
による環境意識の啓発及び人材育成事業
- 事業主体** : NPO 法人自然体験共学センター
- 事業期間** : 2009年4月9日～2010年3月31日
- 助成** : 独立行政法人環境再生保全機構 地球環境基金

事業の趣旨

環境保護への関心・環境保護意識の高揚から、レジ袋の有料化、温室効果ガスの削減への取り組みなど民間・行政を挙げての環境保護活動が取り込まれつつある。今後、より一層の環境保護活動をすすめるためには、私達一人ひとりが、自然に対する意識を変化させる必要がある。また参加者が、自然の素晴らしさ・豊かさ、時には自然を畏怖する気持ちを、五感を使い身体全体で感じ、自然や環境の中で生かされている自分を実感することが重要であると考え。新たに環境啓発活動をしていこうとする若者の企画力・運営力を養成することも重要だと考える。

本事業のねらい

- 1) 青年を中心に環境啓発イベントの企画・運営を行うことで、環境啓発イベントなどの種々の活動での企画力・運営力を養うと共に、環境啓発活動への自発的な取り組みの姿勢を育てる。
- 2) 自然の中で芸術に触れ、五感を活用して自然を楽しみ、自然の豊かさ・多様性を十分に感じ、ゆったりとした時間(スローライフ)を過ごすことで、参加者の心にゆとりを生み、豊かな心の成長と共に、心の豊かさを生み出す自然を守ろうとする環境保護意識を高める。
- 3) 子どもたちを中心とした環境保護に関する劇を創り、自然の中で劇を上演することを通して、子どもたちの発信力を育てると同時に、自然を感じる力を育成する。



事業実施概要

アクターズ・キャンプ（ふくい自然アートフェスティバル関連企画）

参加対象：小学校 4 年生～中学 3 年生

実施日時：2009 年 9 月 20 日～11 月 3 日

参加者人数： 4 人（県内 2 名 関西 2 名）

実施場所：福井市上味見生涯教育教育施設および周辺

環境保全活動への取り組み、ふくい自然アートフェスティバル in 美山に向けた、劇作り・自然体験活動。

* 第 1 回：「アクターズキャンプ」 2009 年 9 月 20 日～23 日

内容：環境啓発劇の練習、自然体験活動

* 第 2 回：「アクターズキャンプ」 2009 年 10 月 12 日

内容：劇の練習、秋の森遊び

* 第 3 回：「アクターズキャンプ」 2009 年 11 月 3 日

内容：環境啓発劇「葉っぱのフレディ」上演、マイはし作り

アートフェスティバル実行委員会（環境教育指導者の養成）

第 1 回 アートフェスティバル実行委員会

実施日時：2009 年 5 月 4～6 日

第 2 回 アートフェスティバル実行委員会

実施日時：2009 年 6 月 27 日

第 3 回 アートフェスティバル実行委員会

実施日時：2009 年 9 月 20 日 22 日

第 4 回 アートフェスティバル実行委員会

実施日時：2009 年 10 月 31 日

第 5 回 アートフェスティバル実行委員会

実施日時：2010 年 1 月 31 日

ふくい自然アートフェスティバル in 美山（環境啓発イベント）

実施日時：2009 年 11 月 3 日(火) 10：00～15：00

参加人数：50 名（地域内外より）

実施場所：福井市生涯教育施設および、ツリーハウスの森特設舞台

実施内容：「森の劇場」環境啓発劇の鑑賞・その他芸術鑑賞会

森へのメッセージ展示 マイはし作り

実行委員構成

役割	氏名	所属	役職
実行委員長	濱見彰映	Curriculum Vitae	プロデューサー
委員	岩田絵梨	大阪芸術大学	学生
委員	柴田雄基	関西国際大学	学生
委員	甲斐喜申	関西国際大学	学生
委員	水口豪		舞台俳優
委員	古川雄大	福井大学	学生

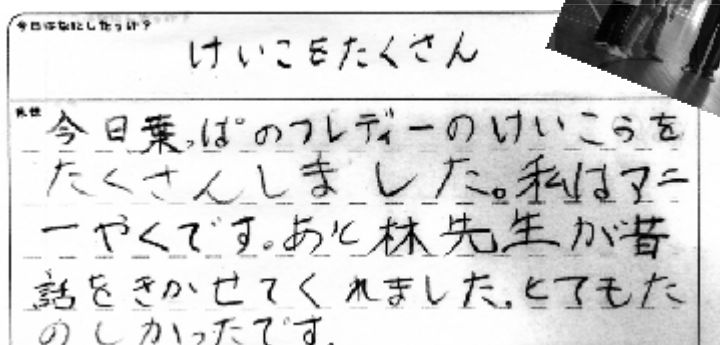
アクターズ・キャンプ 9月20日～23日

1日目 平成21年 9月 20日(日)はじめましての日～春～



演劇キャンプの第1日目。子ども達は、初めてのキャンプと初めて出会う人にドキドキ。
さっそく、近くの神社におでかけに行きました
学校にもどったらさっそくお芝居の練習をスタート！台本をみんなで読みました。

2日目 平成21年 9月 21日(月) 青々の日～夏～



間伐材を使って、みんなで朝食作りをしました。おいしくできるかな？
地元劇団「ババーズ」や、木ごころ一座の座長、林幸男先生が
みんなの練習に来てくれました。お芝居のこと、民話のお話を聞いたりしました。
この日には台本を見なくても、みんな自分の台詞を覚えてしまいました！

3日目 平成 21 年 9 月 22 日 (火) 色づきの日 ~秋~



朝食づくりや、衣装作り、舞台の準備がすすんできました！
今日はいよいよ、外での練習です。ちょっと雨も降ったりしましたが
明日の本番はきっと晴れますように・・・

最終日の夜には、キャンプファイヤーで、今回のアクターズキャンプをふりかえりました。
お芝居「葉っぱのフレディ」を呼んで、自然についてみんなの想いが強くなりました。

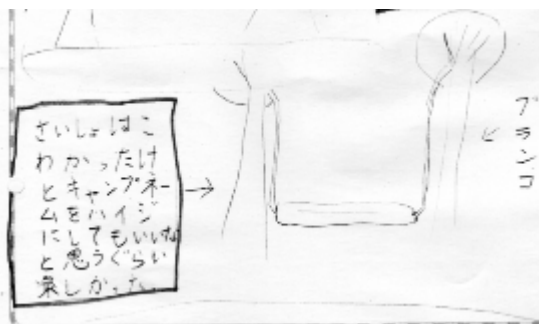
4日目 9 月 23 日 (水) つたえるの日 ~冬~

いよいよ、プレ公演の日になりました。

地域の方々、保護者の方がお客様となって、みんなの劇を見に来られました
杉林を背景にして、森の劇場の開演です！音響・照明は自然のままみんなちょっと緊張した
けれど、立派に舞台をつとめました。次は11月3日を目指してがんばろう！！



平成21年 10月12日 日帰り活動 劇練習と秋の森たんけん



10月のアクターズキャンプ。11月の本番にむけた、最後の練習日です。
秋の森探検、森遊びを通じて、もっとフレディ達の世界に近づいてみました。
小道具や美術をみんなで作りました！！

ふくい自然アートフェスティバル in 美山

11月3日

平成21年11月3日(火) 10:00~15:00

午前中の不安定なお天気が心配でしたが、午後には太陽が降り注ぐ青空になりました！

地域の方々や、地域外からもお客様が見え、山が一気ににぎやかになりました。

午前中は、みんなでゲームや山に探検に行きました。午後にはいよいよ「森の劇場」の開演です。アクトーズキャンプで練習したお芝居はもちろん、歌にダンスなど様々なプログラムをみんなで楽しみました。

「葉っぱのフレディ」や、森の劇場を通じて、みんな自然との一体感を感じることが出来たひと時でした。



アートフェスティバル実行委員会 2009年5月～2010年1月

関西・北陸の青年を中心とした、「ふくいアートフェスティバル in 美山」実行委員会を組織。
5月～次年の1月末日までに実行委員会、協議、現場調整などを行う。

第1回 時期：5月4日～6日 2泊3日

場所：福井市上味見生涯教育施設、美山地域

1. 「ふくい自然アートフェスティバル in 美山」開催に向けて、概要の説明。

本事業実施についての経緯や、目標などについて(NPO 法人自然体験共学センター事務局)より説明。質疑など

2. 実行委員長選出

3. アートフェスティバル 企画アイデアの抽出

アートフェスティバルの「ねらい」について

遊びごころことふるさと感をもった、子ども達の心に残るイベント

確実に未来につなげるための土台作り

自分達の地域に触れられる活動をめざす



まとめ

顔合わせ・自己紹介の後アートフェスティバルに関するイメージを参加者と共有・協議。イベントテーマである「環境教育」に関してや「アート」というものに対して、参加者一人ひとりのイメージや、今回のイベントや企画に対するそれぞれの目標などについて共有した。

環境・自然・地域とイベントで取り上げていこうとするテーマそれぞれが大きく、そのすべてをイベント内にて消化することが難しいという意見が出た。その上で、現在アートフェスティバルや、自然・環境に関した企画やアイデアについて意見交換を行った。植樹や活動地域の写真展などのアイデアなど、自然と直接触れあう企画や「アート」という形式をとることで、写真や展示などの表現を通じてのアプローチについてアイデアが出た。

第2回

時期：6月27日(土)

場所：福井市上味見生涯教育施設

**議題：第1回目での抽出された企画アイデアの中から、
具体的なイベント内容について協議**

第1回目の実行委員会に参加できなかった参加者に改めて、第1回の様子や今後の活動について全体での情報共有の場を設けた。その上で、実際に会場予定となる「ツリーハウスの森」でのアートフェスティバル開催に向けての、具体的な企画立案を行った。会場を森の中にとどめず、活動場所である上味見生涯教育施設内を利用するという意見もでた。が、誘導の問題や安全管理などの面から再度検討が必要と判断し、第2回の会議を終了した。



会議後半には、実行委員会メンバーによるワークショップが行われ、仲間作りのゲームなどをメンバー全員で体験を行った。体験後、写真展示や演劇鑑賞などの、アートフェスティバル参加者が単に鑑賞するのではなく、実際に自然と関わる時間や、その場で出会う人々との交流が図れる仕掛け作りができないかとメンバー内から意見が出た。

第3回

時期：9月20・22日

場所：福井市上味見生涯教育施設

議題：11月3日に向けた、イベント企画内容について協議・意見交換など

第1回第2回の会議を踏まえて、イベント全体の企画について意見をまとめた。イベント全体を一つの演劇発表の場として進めていくという意見で意見が進んでいった。上演予定の「葉っぱのフレディ」の物語の構成上「春・夏・秋・冬」四季を、会場内の4箇所場所それぞれで上演し、それに関連した写真展示やネイチャーゲームを取り入れることで、アートフェスタ参加者により自然について触れたり考えられる時間を作るという企画にまとまっていった。ネイチャーゲームなどについては、実行委員会メンバーないからも自発的に行いたいという意見もでたりと、実行委員としての自覚が強くなってきたように感じた。



第4回

時期：10月31日

場所：福井市上味見生涯教育施設

議題：11月3日に向けた、運営最終確認

事後の検証会日程調整。当日作業分担など

「ふくい自然アートフェスティバル in 美山」実施に向けて、当日運営などについての協議を行った。また、会場作りや地域住民への参加呼びかけを行った。それぞれが役割意識をもち、イベントに臨む姿勢が見られた。

第5回

時期：2010年1月31日

場所：福井市上味見生涯教育施設

議題：2009年「ふくい自然アートフェスティバル in 美山」の実施検証及び、

次年度継続に向けた展望についての協議など。

事業についての、事後検証について意見交換を行った。イベントにおけるテーマや、具体的な課題、改善点、評価すべきところなどについて協議を行った。次年度以降の実行委員への参加についての意欲を見せた実行委員メンバーもあり、今回の事業を通じて、環境教育指導者としての意識を持たせることが出来たと感じた。

事業成果

アクターズキャンプ参加者及び、アーティスト実行委員会に対して、アンケートを実施。

活動前後の環境に対する意識の変化について調査を行った。

調査内容：劇作り台本「葉っぱのフレディ」を通じて、家庭で出来る環境保護活動についての行動目標を設定する。4ヵ月後に、再度アンケートを実施、自己評価を行い環境に対する意識付けの継続が出来たかを調査する。

9月活動直後のアンケートより

Q. 葉っぱのフレディをよんでどう感じた？

葉っぱのフレディは一人ぼっちになった

葉っぱにも命がある

普段と違う視点から「いのち」というものを考えることが出来た

何か、葉っぱ一枚でも、何にでも一つずつ命があって、みんな一生けんめい生きてい
ると思った。

Q. 葉っぱのフレディの世界を守るために自分たちにできることは？

毎日、地球の周りで、ゴミを減らす

毎日、どこでも、できるだけ植物をいためない

毎日、家など、使わない電気は消し、意味もなくテレビなどをつけない。

できるだけ毎日、家や外などで、水をせつやくしてなるべく汚い水を出さないように
する。



参加者アンケートについて

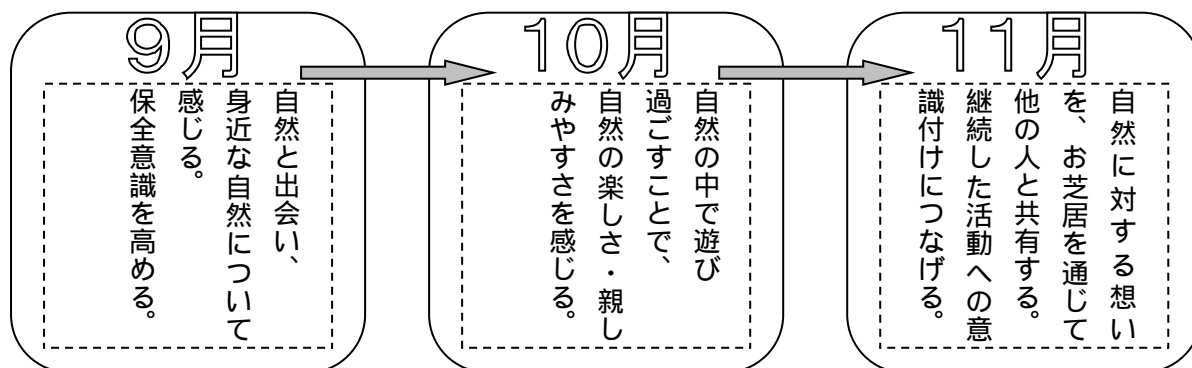
今回の事業では、「葉っぱのフレディ」を題材に、劇作り活動に取り組んだ。また、「葉っぱのフレディ」の世界を守るために自分達にできることは何か？を考えることで、具体的な環境保全活動への意識付けを行った。上記のアンケート結果より、活動直後の参加者のアンケートには、題材である「葉っぱのフレディ」を通じて、「自然」や「いのち」について、考える機会があったことがわかる。さらに、自身が物語の登場人物になることで、より具体的な環境保全活動を考えることが出来たと考えられる。

事業検証・課題

アクターズキャンプ検証 ～表現活動から環境教育へ～

本事業で実施した「アクターズキャンプ」では、「葉っぱのフレディ」の劇作りを通じた環境保全への意識啓発を行うことが出来た。また、参加者である小学生～中学生のみならず、ホーターとして参加した大学生・社会人の大人にとっても、舞台づくりを通じての自然とのつながりを感じることが出来た。また、活動を9月10月11月と中期間に及び取り組むことで、子ども達一人ひとりの環境に対する意識を、各々のスピードで高まることが出来た。さらに、具体的な行動目標を設定し、時間をかけて行動の継続・習慣化を行いやすい状況を作ることができた。

参加者への環境への意識付け経緯



課題 環境教育活動と表現活動への取り組みを経て

参加者の子ども達及び、大人の環境保全意識の向上と具体的な行動への意識付けを行うことが出来た。しかしながら、環境教育活動と表現活動を合わせて実施した今回の事業は、活動内容の周知が難しいことがわかった。自然体験活動、表現活動それぞれに対して興味を持つ人々は多くいるが、それら二つが合わさった活動についてはイメージが難しいという結果がわかった。今後活動を継続していくためには、参加者となる人々への適切な情報の広報、また事前に活動の雰囲気を感じられるプレ活動などを組み込むことが必要となってくる。

また、活動内容についての広報手段として、活動風景の写真や、制作物、イベントの映像などを全国の様々な場所で展示を行うことも、有効な手段の一つと考えられる。

アートフェスティバル実行委員会検証 環境教育指導者として一人の人間として

青年を中心とした「アートフェスティバル実行委員会」では、「ふくい自然アートフェスティバル in 美山」の企画・運営を行うことで、環境啓発イベントなどでの企画・運営力を養うと共に、環境啓発活動への自発的な取り組みの姿勢を育てることが出来た。また、環境教育・環境問題に対して日ごろ意識を持っている大学生にとって、今回初めて「自然」と「アート」というテーマの中でのイベント企画・運営は困難ではあったが、目的意識を高く持ち、運営に関する姿があった。子ども達との共同生活、劇作りを通じて、大人一人ひとりも自然・環境に対する畏敬の念や、自然の循環について感じる機会があった。環境教育指導者としての意識を高めることに繋がった。

課題 環境教育活動指導者の人材育成

本事業における人材育成活動として「ふくい自然アートフェスティバル in 美山」実行委員会の組織および、環境教育指導者の育成に取り組んだ。指導者・実行委員合わせて 8 名の参加者数となった。参加者は、第 1 回の実行委員会を 5 月の連休に行い、地域調査やイベントの企画・運営に携わった。実行委員会発足当初は、自分から意見を述べることや、企画を提案・計画・実践することに対して消極的だった実行委員会もいたが、活動を続けていく間に、目的意識を持って活動に参加する姿勢が見受けられた。このことも踏まえ、この事業が、青年の社会参加の場としての可能性を秘めていることを感じた。

9 ヶ月という長期にわたっての人材育成事業を実施する中で、個人個人のペースで課題に取り組むことが機会が作れたこともよかった点である。スピードと成果を求められがちな現代において、今回の事業のようなゆとりを持った人材育成事業を行えたことは大きな成果であると考えている。また、実行委員会の参加者の中には、次年度以降の活動への参加を希望する者もあり、事業の必要性を感じた。

今後も環境教育における人材育成を行うならば、指導者の実践の場を提供すること・スキルアップの場などが必要となってくるだろう。

アートフェスティバル検証 自然・アート・人 のつながりの中で

2009年11月3日に実施した、「ふくい自然アートフェスティバル in 美山」には50名程度の参加者が訪れた。イベント当日は、実施場所である上味見生涯教育施設および周辺の自然を活用した、環境にまつわる展示やゲームを常設し、参加者への意識啓発を呼びかけた。

また午後からは会場を森の中に移し、ツリーハウスの森などを活用した芸術鑑賞会「森の劇場」プロダクションを実施した。オープニングには、アクターズキャンプでもご指導いただいた地元劇団ババース座長の「林幸男」氏にお願いし、地域民話やコカリナの演奏を鑑賞した。

また、日本古来の自然との共生の中から生まれた「神楽舞」を現代風にアレンジしたダンスを鑑賞し、われわれの生活と自然とのつながりについて考える機会となった。

プロダクション内では、本事業で取り組んだ「アクターズキャンプ」にて練習した「葉っぱのフレディ」の上演を行った。

全プロダクション終了後、鑑賞者やスタッフから「人間は自然の一部であることを知った」「葉っぱのフレディを通じて、自然界について、また命の循環について考えさせられた」と

という意見があり、イベントを通じて環境保全への意識が向上したことがわかった。

鑑賞後は、鑑賞者を対象に「マイはし」作りに取り組み、参加者それぞれの家庭で継続的に
行える環境保全活動の第一歩とした。

さらに、アートフェスティバルから約一ヶ月後にアクターズキャンプの参加者を対象に
行った事後アンケート結果では森の中でのお芝居の上演を通じて、環境のこと、自然のこと
についてそれまでの生活よりも考えるようになったという意見が多くあった。

自然・環境のこのことのみならず、劇の上演または台本として使用した「葉っぱのフレディ」
を通じて、いのちの循環、自然を含めた地球全体について考え、行動するきっかけとなって
いったことがわかる。

また、アンケートでは、自然のこのことのみならず、一緒に活動をした仲間の大切さや、活
動についての達成感、またお芝居という非日常の活動を通じて新たな自身を発見できた喜び
などを述べている一面もあり、参加者の満足・達成感が高いと考えられる。

参加者ふりかえりシートより



特に変化の見られた子どもの様子からの考察

普段、人と関ることや集団生活・集団行動において、単独での行動が目立った参加者の Y
君。お芝居作りを通じた今回の活動で、大きく変化が見られた。以前までの Y 君は、こちら
の話しを集中して聞く、活動に取り組む姿勢は誰よりも早い、集中力が続かないことが残
念な時があった。

しかし Y 君は、お芝居の練習時に、他の参加者に対して稽古への参加を呼びかけたり、人
一倍お芝居について積極的に取り組む姿が見られた。

また、お芝居のみならず題材となる「葉っぱのフレディ」について、お話からメッセージ
を読み取り、それらを観客に伝えることについて考えるようになった。

本事業を通じて、事業目標である環境教育保全意識の啓発のみならず、ある参加者にとっ
ては自己表現力・コミュニケーション能力の向上につながる結果となった。

課題 アートフェスティバル を通じた地域協働の環境教育活動に向けて

今回の事業の特徴の一つとして「自然」と「アート」を組み合わせ、新たな環境啓発イ
ベントに取り組んだ。森の中での芸術鑑賞を通じて、自然との一体感や循環する自然を感じ
る機会を作ることができた。自然の中で五感を使って芸術鑑賞を行うことで、自然に対する
親しみやすさを感じられることがわかった。森や自然を見ることに加えて、自ら自然と関る
機会を持つことが重要になってくる。自ら生み出した作品を、森や地域の様々な風景の中に
置くことで、より深く自然とのつながりを感じることができるのではないだろうか。作品を
見るために、気軽に森に遊びに来るきっかけにもなるだろう。

また、他の人との協働によってより深く自然に対して考え、自然と関る機会を作ること
も重要となるだろう。「アート」の手法を用いながら、自然の美しさ・楽しみ方を表現し、それ

里山の森を活用した「ふくい自然アートフェスティバル in 美山」による環境意識の啓発及び人材育成事業
NPO 法人自然体験共学センター

らを他者と共有すること、それらをきっかけとした参加者同士の新たなコミュニティが生まれるかもしれない。

またイベント実施においては、イベント参加者の集客方法や、イベント後の具体的な環境保全活動へのつながりなどについて課題が残った。イベント内容をイメージしやすく、参加しやすい雰囲気作りが必要である。また、具体的な環境保全活動へつなげるためには、活動を半永続的に続けられる企画づくりが必要になってくる。

アートフェスティバルを主軸とした、新たな環境教育活動の取り組み提案

アートフェスティバル実行委員会

- <目的> アートフェスティバルの企画・運営を通じた 環境教育指導者の育成
- <方法> 地域資材から自然に対する専門的知識を得る
地域住民と参加者の架け橋となり、コーディネーターの実践の場を作る

アートフェスティバル

- <目的> 自然により親しみやすく、気軽に触れられる機会の設定
- <方法> 「アート」を活用した、人と自然のつながりを感じるイベント実施
自然をテーマとした芸術作品の鑑賞による、環境保全意識の啓発
作品制作を通じた、具体的かつ継続的なイベント参加の仕掛け作り

アートフェスティバル関連企画

- <目的> 参加者へのイベントイメージの共有
- <方法> フェスティバル実施期間の拡大
常設展示など、いつでも鑑賞できる作品の充実
地域住民なども参加できる、アートと自然を体感できる企画の実施

他団体、地域団体との協働・連携

- <目的> イベント周知 地域資材の再発見 開催地域の拡大 指導者の研修
- <方法> 環境教育指導者、自然体験活動主催団体、文化団体、との広報連携
専門家を交えた講座・研修の充実
参加者同士で構成されたコミュニティの自発的な環境教育活動の実施

事業展望

近年、日本の各地で「自然」と「アート」をテーマとしたイベントが開催されている。それらの多くは、「アート」の手法を用いて、「自然」を様々な方向から捉え、その姿を再構築している。刈取りの終わった田畑に、突然巨大なモニュメントが建つ。または、開催地域で使われなくなった空家を改装して、ギャラリースペースや交流スペースなどを設け、人々のコミュニケーションの場を作っていたりもする。「自然」やそこから生まれた「文化」を改めて見直す機会を「アート」が作っているのだ。

今回行った「ふくい自然アートフェスティバル in 美山」も、それらの活動を基本にしながら、独自のアートフェスティバルの形を作った。「アート」に重点を置いた、ある特定の人々のみ開かれたイベントではないことが、本事業の特徴である。「自然」「人」「文化」をテーマに、誰にでも気軽に自然と触れ合え、自然の美しさを感じ、それらと共に生きていくことを考える機会を与えて行くことが重要となってくるだろう。

今回、表現活動と自然体験活動を組み合わせた、新たな環境教育活動のモデルとして、「里山の森を活用した「ふくい自然アートフェスティバル in 美山」による環境意識の啓発および人材育成事業」に取り組んだ。自然体験活動を主として活動を展開してきた共学センターにとっては、初めての試みとなり、参加者募集や人材協力、地域との協働など、さまざまな面において課題が浮かび上がった。

芸術鑑賞を通しての、環境保全意識の啓発および具体的行動へのつながりを持たせることについて、芸術面、自然体験活動の両方の側面からのアプローチを試みた今回の事業は、今後も継続してゆく必要性を感じている。これからの環境教育活動の発展と充実の一端を担っていくことが今後の目標である。

協力者コメント

伊自良の里振興協会理事

木漏れ日の中で

小林 悟

11月3日、晩秋の森は多彩な色に染まり、木漏れ日が子ども達を照らし、落ち葉の舞台を照らしていました。「葉っぱのフレディ」の舞台として、これ以上ない最高の大道具や照明でした。山肌の斜面に腰を下ろすと、そこは客席というより、舞台の中の一隅に思えてきます。一瞬にして、森の命の世界に引き込まれます。

その昔、まだ演劇という言葉もなかったころ、人々はこうした森の中で歌い、踊り、命の輝きを表現していたのでしょう。

この「森の劇場」の試みは、演じる心の原点に戻って、無限の可能性を感じさせてくれます。

演じ終わった子ども達の、味わい深い感想と晴れやかな笑顔は、とても印象に残りました。

劇団「パバース」座長

森の舞台に興奮

林 幸男

平成 21 年 11 月 3 日、文化の日ではあるが私にとっては特別の日だった。それは上味見共学センターで、森のフェスティバルが行われる日だ。子どもたちと共学センターの若者たちが、森の中でお芝居をする。その演目は「葉っぱのフレディ」。舞台と演目がピッタリかんかん。子どもたちの生き生きした笑顔が見たくて、昼食もそこそこに上味見へ急いだ。

朝から晴れ上がっていたが、寒気が入って肌寒い。観客は山の斜面に座って開演を今か今かと待っている。子どもたちの両親や、地域の応援者が集まって、雰囲気は満点。時々紅葉が舞い落ちる。秋の陽光が照明役。

T シャツに、赤や緑のペイントをして紅葉を表現した衣装を着て、子どもたちが登場してきた。セリフも演技も抜群。子どもたちの顔が輝いている。見つめる保護者たちも大満足。命のバトンタッチをしていく「葉っぱのフレディ」のテーマがすっきりと理解された。自然の舞台よ、森の舞台よ、ブラボー！

参考資料

葉っぱのフレディ台本

プロローグ

春

OP 音楽 曲 IN とともに、出演者順番に舞台 IN

フレディ あー！いい気持ち

葉っぱたち うん！

みんなこっくりうなづき、それぞれに伸びをする。

メグ おひさまがまぶしいね

葉っぱたち まぶしいね

メグ 空気もおいしいね

葉っぱたち おいしいね

フレディ 春風さんたち、こんにちは

春風全員 こんにちは

春風 君たちはこのカエデの木に生まれてきたんだよ

葉っぱたち ふう～ん（カエデの大木を見上げる）

アニー なぁんて大きな木なんだろう

春風 君達の誕生をお祝いして素敵な名前をつけてあげるよ

春風 物知りな君はダニエル

ダニエル しってるよ（得意げ）

春風 おしゃべリアニー

アニー えー！私がアニーで言いの？え？え？（騒ぐ）

メグ アニーの口を押さえる

春風 泣き虫メグ

春風 そして最後は、こわがりやのフレディ

フレディ 春風さんたち、素敵な名前をありがとう

葉っぱたち ありがとう！！

春風全員 どういたしまして。また一緒にあそぼうね～ 退場

ナレーション 春は誕生の季節。生まれたばかりのフレディたちにとっては何もかもが新鮮で、興味しんしんです。こうき心おうせいなフレディたちはいろんなことを覚えていきました。

木の根っこは地面の下にあって見えないけれど、四方に張っていて、だから、木は倒れないこと。目の下にあるのは公演で、おはようと挨拶に来るのは、小鳥達であること。

月や太陽や星が秩序正しく空を回っていること。

フレディたちは一つのことを覚えていくたび、楽しいことが増えていくみたいで、毎日ウキウキしていました。

そしていつしか春が過ぎ、夏が来ました。

葉っぱたちは夏の暑い日差しを浴びながら、心も身体もぐんぐん大きくなっていきました。

時には強い日差しから逃れてやってくる人間達に、涼しい木陰を作って喜ばれました。葉っぱをそよがせて涼しい風も送ってあげました。

フレディは葉っぱに生まれてよかったなと思うようになりました。

そんな夏も終わり、秋がやってきました。

SE 秋の音 木枯らし

フレディ おはよう。夕べはとっても寒かったね。みんなだいじょうぶ？

葉っぱたち「寒いよさむいよ」と順番に体をふるわせていく。

ダニエル ほら見てごらん。この白いのはね、霜なんだよ。

もうすぐ冬が来る知らせなんだ。

葉っぱたち (口々に) 霜？霜？霜？……

アニー もしもし？もしもし？もしもし？……あれ？

ダニエル 霜だって！！

朝日がのぼる

フレディ あー！！

葉っぱたち なになに？

フレディ みんな、綺麗な色になっているよ。

アニー 君は赤と青と金色になっているよ。ぼくは黄色だ。

ダニエル ぼくは紫色だよ

メグ 私は燃えるような赤よ。

フレディ みんなちがった色だね。どうして一晩のうちにこんなに色が変わったの。どうしてどうしてどうして？？

ダニエル それはね、生まれた時は同じ色でも、いる場所が違えば変わってくるんだよ。

アニー それってどういうこと？

ダニエル いる場所がちがうとおひさまや風のあたり方がちがうだろ。

葉っぱたち うんうん

ダニエル それに月の光、星明り、一日の気温、何ひとつ同じ条件はないんだよ。

フレディ あーだからみんなちがう色になるんだね

メグ・アニー さっすがーダニエル

ダニエル えっへん！

メグ・アニー あははははは・・・

メグ・アニー退場

ナレーション 風が変わったのはその後からでした。春、笑いながらいっしょに踊ってくれた風。夏、害虫といっしょに戦ってくれた強くてやさしい風。その風が別人のように顔をこわばらせて葉っぱたちに襲い掛かってきたのです。葉っぱたちはこらえきれずに、ふきとばされて巻き上げられ、次々と落ちていきました。

ダニエル みんな引越しをする時がきたんだよ。とうとう冬がきたんだ。ぼくたちは一人残らずここからいなくなるんだ。

フレディ みんないなくなるの？

ダニエル ああ。

フレディ みんな引っ越していった。・・・
ダニエルもここからいなくなるの？

ダニエル ぼくもいなくなるよ

フレディ それはいつ？

ダニエル 僕のばんがきたらね

フレディ ぼくはいやだ！ぼくはここにいるよ！

ダニエル ・・・

- フレディ 引越しをするとか、ここからいなくなるとか、君は言ったけれどそれは・・・死ぬということでしょ
- ダニエル (無言)
- フレディ ぼく、死ぬのが怖いよ
- ダニエル そのとおりだね、まだ経験していないことは、怖いと思うものだ。でも考えてごらん。
- 音楽 退場した葉っぱたち 春風 IN
「フレディ」「フレディ」と口々に叫ぶ
- 春風 世界は変化し続けているんだ。
春風 変化しないものはひとつもないのよ
春風 春が来て夏になり、秋になる。葉っぱはみどりから紅葉して散る。
- メグ 変化するって自然なことなんだ。
- アニー きみは春が夏になる時、こわかったかい？
- フレディ (少し考え、首を横に振る)
- メグ 緑から紅葉する時、こわくなかったでしょ。
- 男子全員 ぼくたちも変化し続けているんだ
- 女子全員 死ぬということも、変わることの一つなのよ
- フレディ この木も死ぬの？
- ダニエル 命あるものはいつか死ぬさ。でもそれは「おわり」ということじゃない。「いのち」は永遠に生きているのだよ。
- フレディ ねえダニエル。一つ聞いていい？
ぼくは生まれてきてよかったのだろうか。
- ダニエル ぼくたちは春から冬までの間ほんとうによく働いたし、よく遊んだね。まわりには月や太陽や星がいた。雨や風もいた。人間に木陰を作ったり、秋には鮮やかに紅葉してみんなの眼を楽しませたりもしたよね。それはどんなに楽しかったことだろう。それはどんなに幸せだったことだろう

フレディを残して全員退場

フレディ ダニエル！！

 ・ ・ ・ ・ 僕は生まれてきてよかった。
 だってあんなに幸せな日々を過ごせたんだもの。 ・ ・ ・ ・
 でも、ひとりぼっちはやっぱりさびしいな。

ナレーション 次の朝は雪でした。初雪です。やわらかで真っ白で、静かな雪はじんと冷たく、身にしみました。フレディは自分が色あせて、枯れてきたように思いました。冷たい雪が重く感じられます。明け方、フレディは迎えに来た風に乗って枝を離れました。痛くもなく、怖くもありませんでした。フレディは空中にしばらく舞って、それからそおっと地面に降りていきました。そのときフレディは初めて木の全体の姿を見たのです。

フレディ わあー！僕がいた木はなんて大きな木だったんだ。なんてがっしりしているんだ。

ナレーション フレディはダニエルから聞いた「いのち」という言葉を思い出しました。「いのち」は永遠に生きているのだと ・ ・ ・ 。これならいつまでも生き続けるに違いありません。そう思うと、フレディの心はあたたかくなりました。冬が終わると春が来て、雪は溶け、水になり、かれ葉のフレディはその水にまじり、土に溶け込んで木を育てる力になるのです。フレディは静かに目をとじ、ねむりに入りました。

女子全員 春・夏・秋・冬と毎年季節はめぐります。

ダニエル それは、決して当たり前ではありません。自然の大きな力のおかげです。

アニー いっしゅんとして同じしゅんかんはないのです。

メグ その中のあらゆる形でいきている「いのち」
春風全員 この大木も土や根や枝の中の目には見えないところで新しいいのちを生み出そうと準備しています。

フレディ 時々自然の音に耳を傾けてみてください。大自然の設計図は今も変わることなく、いのちを変化させ続けているはずですから。

全員 また春がめぐってきました。

OP 音楽 全員退場

終演

自然の中で芝居練習

福井「アクターズキャンプ」始まる



自然の中で読み合わせに集中する「アクターズキャンプ」の子たち。写真は福井市の「自然体験共学センター」で撮影された。

公募児童ら台本読み合わせ 11月に上演

福井市の児童（非営利）福祉施設で始まった「アクターズキャンプ」は、11月13日から15日の3日間、美山町の自然体験共学センターで、台本読み合わせの練習が始まる。アクターズキャンプは、福井市立児童福祉施設で、11月13日から15日の3日間、美山町の自然体験共学センターで、台本読み合わせの練習が始まる。

「これから指導を受ける児童らには、自然の中で台本を読み合わせ、演技の練習をしてもらう。自然の中で台本を読み合わせ、演技の練習をしてもらう。自然の中で台本を読み合わせ、演技の練習をしてもらう。」

(日刊)

福井新聞

森の中で歌や演劇
児童ら50人集めて
美山でアートフェス

福井市で、児童ら50人が参加した「自然体験共学センター」で、11月13日から15日の3日間、美山町の自然体験共学センターで、台本読み合わせの練習が始まる。



「森の中で歌や演劇、児童ら50人が参加した「自然体験共学センター」で、11月13日から15日の3日間、美山町の自然体験共学センターで、台本読み合わせの練習が始まる。」

市立児童福祉施設で、11月13日から15日の3日間、美山町の自然体験共学センターで、台本読み合わせの練習が始まる。

「自然の中で台本を読み合わせ、演技の練習をしてもらう。自然の中で台本を読み合わせ、演技の練習をしてもらう。」

福井新聞

2008年(平成20年)9月29日(火曜日) 福井新聞 (4)

自然に触れ演劇創作

美山で合宿、児童ら生き生き



福井市の中手町の児童らによる演劇創作の様子。美山で合宿した児童らは、自然に触れながら演劇創作に取り組んだ。

児童らが自然に触れながら演劇創作に取り組んだ。美山で合宿した児童らは、自然に触れながら演劇創作に取り組んだ。

美山で合宿した児童らは、自然に触れながら演劇創作に取り組んだ。美山で合宿した児童らは、自然に触れながら演劇創作に取り組んだ。美山で合宿した児童らは、自然に触れながら演劇創作に取り組んだ。

美山で合宿した児童らは、自然に触れながら演劇創作に取り組んだ。美山で合宿した児童らは、自然に触れながら演劇創作に取り組んだ。美山で合宿した児童らは、自然に触れながら演劇創作に取り組んだ。



2009 独立行政法人 環境再生保全機構
地球環境基金助成事業

里山の森を活用した「ふくい自然アートフェスティバル in 美山」による
環境意識の啓発及び人材育成事業 活動報告書

発行 : 2010年3月

発行者 : NPO法人自然体験共学センター

〒910-0005 福井県福井市大手 2-16-37

TEL : 0776-21-2216 FAX : 0776-24-8603